

演題番号：	PA2007
演題名：	HCC（肝細胞癌）末期医療における症例
演者名：	浅井 信太郎
要旨： この枠内に、500 字以内で お願いします。	多発した HCC（肝細胞癌）、腹膜播種、門脈内浸潤状態の 66 歳男性の症例。2007 年 1 月 11 日時点の腫瘍マーカー α -FP が 7649ng/ml で PIVKA2EC が 30900mAU/ml と高値。前後に化学療法を一切おこなわず 2007 年 2 月末頃から 2 種類のサプリメント（海藻糖鎖エキス+セレンウム）飲用しコントロール。2007 年 6 月 1 日に α -FP が 10.2ng/ml で PIVKA2EC が 91mAU/ml と軽減。メカニズムやアカデミックな作用機序は不明だが 2007 年 10 月 4 日現在、内臓起因の愁訴はなく、日常生活を送っている。
会社名：	株式会社ステムズ
住所：	〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-11-4
Tel:	03-5798-3338
Fax:	03-5798-3332
Email:	info@stem01.com

● Background

66 歳男性。HCV キャリアから 2003 年 11 月 2.5cm 大の肝癌が 2 箇所発症。京都府立医科大学でラジオ波療法により治療。以後強ミノを飲用し近医で follow。体調の急激な悪化と急激な体重減（73kg→59kg）により 2007 年 1 月 11 日再度京都府立医科大学にて精密検査。別表の通り高値で Cure 困難な状態。

検査項目 基準値/単位	AFP (α -FP) 10ng/ml 以下	PIVKA II 40mAU/ml 未満	AST(GOT) 8~37U/l	ALT(GPT) 5~42U/l	ALP 100~340U/l	γ -GTP 0~70U/l
H19.1.16	7,649	30,900	96	41	679	280

● Objective

Cure 困難な状態であり化学療法の選択はせず QOL の向上と延命を目的として 2007 年 2 月からサプリメントを飲用。

● Methods

QOL 向上目的のサプリメントと腹水の軽減目的の利尿剤を飲用。

サプリメントは 2 種類で、海藻（メカブ）由来の糖鎖エキスとセレンウムを主成分とするサプリメントを飲用。

飲用量は海藻糖鎖エキスを就寝前 50cc/day、日中 20cc/day、セレンウムは 200 μ g/day を 2 月末頃から 3 ヶ月間飲用した。

Results

飲用開始後約1ヶ月過ぎ頃から2007年3月末に食欲及び倦怠感の改善が見られ体重の増加を確認。2007年5月に α -FPの検査及びCTにてポジティブな傾向を確認。

2007年6月1日、2007年8月31日の継続的な血液検査の結果、1月の時点よりも優位にポジティブな傾向を確認できている。2007年10月現在愁訴は殆どなく日常生活を過している。

【肝臓に関する主な数値の変遷】2007年1月～8月

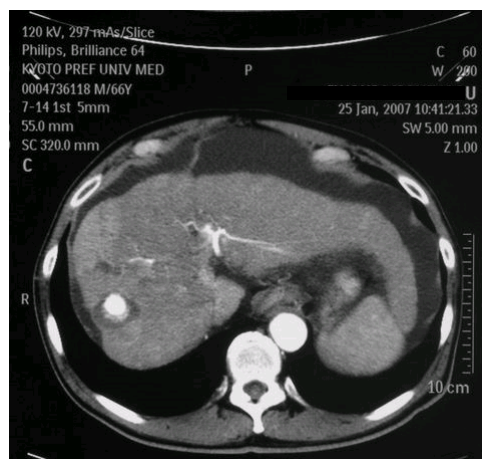
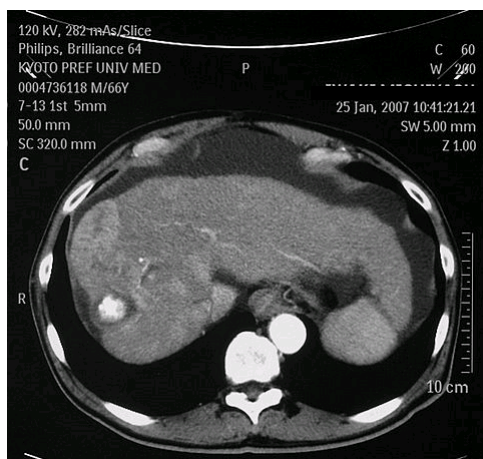
検査項目 基準値/単位	AFP(α -FP) 10ng/ml以下	PIVKA II 40mAU/ml未満	AST(GOT) 8~37U/l	ALT(GPT) 5~42U/l	ALP 100~340U/l	γ -GTP 0~70U/l
H19.1.16	7,649	30,900	96	41	679	280
H19.5.11	11.6		64	50	345	52
H19.6.1	10.2	91	68	43	350	59
H19.8.31	12.3		38	28	296	55

【血液データの変遷】2007年1月～8月

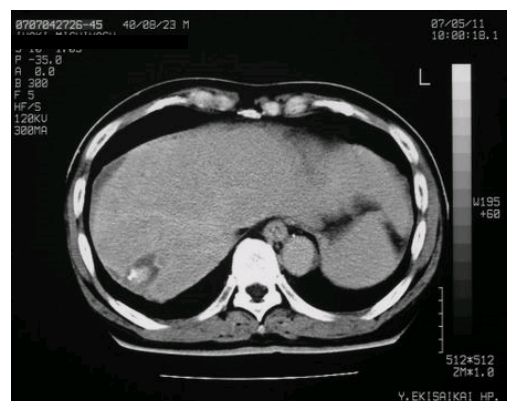
	京都府大	横浜えきさい会病院			基準値/単位
検査項目	H19.1.16	H19.5.11	H19.6.1	H19.8.31	
1 TP	8.1	7.9	8.4	8.4	6.3~8.3g/dl
2 ALB	3.4	3.2	3.4	3.6	3.5~5.0g/dl
3 A/G比	0.7	0.68	0.68	0.75	1.20~1.80
4 LDH	188	329	320	295	150~440U/l
5 AST(GOT)	96	64	68	38	8~37U/l
6 ALT(GPT)	41	50	43	28	5~42U/l
7 ALP	679	345	350	296	100~340U/l
8 γ -GTP	280	52	59	55	0~70U/l
9 ChE		0.49	0.55	0.59	0.60~1.40 Δ pH
10 T-Bil	0.7	0.5	0.5	0.7	0.2~1.2mg/dl
11 D-Bil	0.2				0.0~0.4mg/dl
12 BUN	19.1	22	26	20	8~20mg/dl
13 CRE	1.0	1.4	1.9	1.9	0.6~1.1mg/dl
14 UA		9.9	10.8	11.4	2.5~8.0mg/dl
15 TC		134	140	155	130~230mg/dl
16 TG		110	206	149	50~160mg/dl
17 Amy		292	304	295	100~440U/l
18 Glu	128	110	125	112	70~110mg/dl
19 Na	139	137	140	138	135~147mEq/l
20 K	4.0	4.7	4.9	5.3	3.6~5.0mEq/l
21 Cl	109	108	109	107	98~108mEq/l
22 Ca					8.4~10.2mg/dl

	京都府大	横浜えきさい会病院			基準値/単位
検査項目	H19.1.16	H19.5.11	H19.6.1	H19.8.31	
23 WBC	55	40	42	48	34~94 $\times 10^3/\mu l$
24 RBC	439	360	378	433	400~530 $\times 10^4/\mu l$
25 Hgb	12.9	9.8	10.2	10.8	13.7~17.4g/dl
26 Hct	40.6	30.5	32.9	35.8	38.0~49.0%
27 MCV	92.5	84.7	87.1	82.7	86~104fl
28 MCH	29.4	27.1	27.0	25.1	27.5~36.8Pg
29 MCHC	31.8	32.0	31.0	30.3	31.3~36.6g/dl
30 PLT	14.6	12.0	11.9	11.0	14.0~40.0 $\times 10^3/\mu l$
31 Neutro	64.9	48.8	46.9	45.0	38~62
32 Lymph	24.7	37.8	35.9	41.4	20~50
33 Mono	7.1	8.0	11.3	8.9	2~20
34 Eosino	2.4	4.2	4.2	3.2	0~7
35 Baso	0.9	1.2	1.7	1.5	0~2
AFP(α -FP)	7,649	11.6	10.2	12.3	10ng/ml以下
PIVKA II	30,900		91		40mAU/ml未満

【2007 年 1 月 25 日 CT 画像（京都府立医科大学）】



【2007 年 5 月 11 日 CT 画像（横浜えきさい会病院）】



- Conclusions

進行著しい HCC（肝細胞癌）末期において、下がりにくい数値でありまた共に相関関係のない“ α -F P”と“PIVKA2”が定量的に改善に向かう傾向であることが観察されます。

CT 画像からも腹水の消失及び腫瘍と疑われる部位の消失も観察されています。

2 種類のサプリメントを飲用しているため、有効物質は何か？有効物質の作用機序は？再現性がどの程度あるのか？などアカデミックなアプローチが今後解明すべき課題です。

しかしこの症例の持つ意味は、延命やターミナルケア、患者自身や患者家族の倫理観・人生観を考えた場合、大変大きいのではないかと考えます。

今後は現状医療との併用や、より効果性が高いサプリメントの組み合わせなど研究を重ねていきたいと思います。